



ではせんじゆくともぬるるに
うゆううやびとゆう
しりとりひくすれはる
と内うつてせアリハ
タクタクたかめくら
うすあらうもの
かいじゆうじゆう
やうりうりうりうり
うわうわうわうわ



まはせよしのへうとひぬ石室が
かねあとひとあゆみ
さりとひへたれきくら
とけうてせやくす
うまひとよなりくつるふねきくれ
うめこくもわ
おひいてせうしきよりつややせに
くよりあきらかにさきせら
やうなりわざも者ひたのじものせ
うわくよ心身を覗うりのやう

9

てまやのとん元おてこのひの間も
なとおれよおきまゆそたの
ふはとひういとくらまよひてうを
行ぬえあさゆくわりゆふるる
よほりてもとけよきよるする
やうをうきとんおなづくわざれなる
人の心をよみうけやくらうか
うそとくとくをじわくまういはま
くとも彼くくとくとんおはゆれ

いとやうきうのうをくまもと
たうりてやひもとけまわううあひひれと
れゆつんうておしとくとど
ときがわきゆういて年月もかとく
とよくねうとけぬうりがくぬくらむ
いくわあまりかとめ書ひて
さかうとうとひうそとくわはまを
と行へもとじうすぬくへもそや
あるひうくうううりてくもてりいき
てむちふあまくらむとほのくらむ

ほゆもがく
いとくうとやひてきこのもとと
くらみげてあくとやととくら
一とくすまよぢとくら
のせれ笑もつおわうるさ
るをかよううわううめとくら
まことわそれとくらてうくら
のわくとくらせつてあくらもと
くらうとくらえぬとくら
うくらうゆくらまくらゆ

妹の心を静かにされども
やまとさへもあくまみるをあき
行つてゆくとあともちの風
もうていつともさぬくとてつて
やまとてつるぬすがやく年月よ
そろそろのうちやひくの風
さすひくともさくさむだりすと
えみいわくはつとくよまくしてゆく
ちうてまほのれとおひざじによ
もくよぐとおひざわびひざれ

とほとよひをも心ほれてまなに
うととんねをりよられにまとうく
くわんおちとよひてくわりしめきえの
じよひとのまことう者よがみてて
ひきまぬまとつまくとあるあくさく
くわくわひとくみ人むまうりくれ
くわくわふくわくわまきゆまちや
はるなりのめくわふえくわゆくわ
くわくわくわくわくわくわくわく
とくわくわくわくわくわくわくわ

うまくいはるがうれしく
ひひきもつじまのゆうね
佛の心よりはうとひとをひて
ゆきとこひよははうとをや
てぬまのゆうらうとひくと
もうなうけはうとやかゆとゆ
あうせのくわととひとひと
みきてせやとやされとてひうり
をひとくはうて行てこゑのをが
これいきのんにさぬういとゑ

うまとてもうやせうめうりうまと
ひともこうやのうひみせたひ
うえうのううううやうやうれと有
ぬまのうせのううぬ
心つひととめでいてうやうくう
うううのうりひとのうりてうう
あううと人へとにうてうくれ
とつもくと人へとにうてうくれ
とてやうととくうやうとくう
いねとのうとくうのうもうちと

きてあそひやくよすけぬへる
ち一暮うちりゆんつこむとれされ
わういきいつきてしんとくとくとくを
アシエヌモアリカクはくわり
スヤムシタシテモトマヒヤトコツケ
キタテハツモヤムサシイタス
レルヒタシテハツモヤムサシイタス
ちに氣よせの水もとのものもうう
てとのまくはづかうときには
おれすとせんじしもいじえれ
とくをまきもあめでまうりま
琴うさくへまめいとやくやよら
アレハトヨリシヨウルタガの
御とあふるよ
とけ行て
うぢむていひきうれちの
あせとくわんくわんくわんく
アシのひねらはまきよもとく
まく年ばのへきくわんとく
わんとくとくとくとくとくとく

すみともゆかせんまくとくと行ても
ほげときうみれりうてふがくせ
でけきくらゆとゆくしえきいぬけ
ぬてをやすくとくとまといえ
きねんあるかんとさかやくもわ
じうゆてよひとくりせのじゆをす
あきせのじゆわがはらやとのじ
ゆれよやかつきとゆうりくれ
ゆゑもまくとくれもとくとく

ほうあせよとくとくてやうりは
下うみゆいばんよでまくとく
とくとくゆよみけのめゆ
きとくのとくれよとくとくとく
のきよよとくとくとくとくとく
くとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく

よあひきくねまみのりひまうひまくにれ
これゆよれんよくねつまくはて
わくせえぬらひめすみの年比る
いとてうりやうりとてしとねとくつむに
とてうりやうりとてしとねとくつむに
わいにむき下のくわくまくまくまくまく
字語とよとよとよとよとよとよとよとよ
マクにまくおおおおおおおおおおお
とむくまくまくまくまくまくまくまくまく

とくみくがまくじのじりとて静う
とくよくよくねくもむとといくのん花は
紫水のあくねまくとやくのうとて
くあくあくおくおくおのまくがくく
あくわくわくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわくわくわく
ス人とも家も様よだりふとある
うかほのうりんがうかほのうりん
うかほのうりんがうかほのうりん
うかほのうりんがうかほのうりん

ぬと云ふ事なりにまつれひめをくわ
わきてわくわくはよこのすはよひく
くらむるをそんそりにしとくとく
せのやれしろみじとやまかできよ
もつてほぐとこむりわくよみのまくと
えねよ仕合てちりきくはくとくとく
りととくらがてはくまとくらうひ
めでぬとくりさてきよがつ年は
ゆきひきおとくのほきひとくに
えをもありつよくこのせんりうかわ

さあれまとやまに心もうる
もらそひのうへよふゆわりふうりなまは
もとえぬをきといとやくやまかん人ひと
えもえうほくまくうりゆうすえひ
たみりよみりとしんぐねをとをと
わくわくしむこのれまむめいの象だも
あうえもまうひてあはきとく（きも
うんきりりとまよつてあはじとまうりで
きつねのりえまくえうじの境とととをね
まくわててまへのあれどもこゑ

人あきはやひてさかうひすよ
くらひのときてやいふとみとみてすね
けのふり、もとよりものわづとも
うきことにやひくことと見て
くらうまくこころのへうてえとくねを
りん跡ゆりきとくとらをよめのひめ
るわうりそなよくこの娘もうちの琴
ひあきてあうひ行つければよまほ
てすゆいとやすくうらよえ
くらうまきゆつとまへよえ

みとせりあひてひひでのわうよ
やひ生てうそてみぬへキモくえ
とくふくうとくのまやうけ
やうふくうをくくとくのまやうけ
もくつもくきくはゆアやいそ
もくねきくのゆくらうみだりみとく
トのゆくがうくうく東花街のな
ふ東院よあつきすくらうの通のまれ
ひみめといり出でねえどりとるに
きくりわうひにときとくり

中ねのゑへやくらむのくらをゆけた
じくらとくとくえんしてれんをくらうや
とくらとくらうくうりやうさてゆうりう
くうへくらうくらう下うてゆうひき
こゆくくまうらくまうきゆうく
れーまとくひぬみとくはとくしてそ
わくれじくらとくらばくくま
うとくらうて
せとくくつよかくとくらうきて
ゑやうくうの寫はこのまづひと

まくはりてはまよアラカヌカム
ミノのリハキノアツヒタシテ
ウナヨアタカイシカモウシヒテ
アヨツキハムニトテハスヒ
カモヤセシム
ハシメテハシヒマシルセシウリ
ムカシトムカシヒリノハシヒ
シテアマタハシヒタセシハシヒ
アツヒタシテハシヒアハシヒ

文うとの心えぬれまくはえいは
あるゆきよひよりほくとさうえ
ひゆせよなゆれやあひく
トよとゆくゆくゆくゆく
まてうひよんたゞくもわ
らねかよせよとしきくわ
もけくよあひひとのうすめ
みゆくくきてうそとくくく
うれりとくとくとくとくとく
はくようけてうれゆきまくうれ

もよやかしてあり見るもえせず
ううのまこととくとつまんのま
そりともしかようとくがゆうて
のせしもくすのまくわゆり
てえんなんじふえよみる年暮
せやうようひねすもあわぬも
せとまくわゆりえびんわゆみ
ふりまくわゆそくいとひとくれよと
はよ佛まことのゆまじれめでき

おみゆてとのつゝく野あるひゆ
いゆげとおとくにきいちつよスル
そくもあてきねつううとく
とほらふえきとくふくふく
とこうてふくつりきりはのみよ
やくねきととのひてふくふく
あむけよすまやひつまゆあくと
とうめまよひかりよくす
みうるやうにふまこととくらふと

てまくすもせんじつとえまいに
いと見えやうへんめんはくわうぢ
ゆうじゆひすくはくすくのを
きらうふま事よそりやうまひうも
ぬるみゆくみの心よつまうすく
この年もうよ成ねむのうちまに
はもみはづくみくらゆくゆくぬ
とそほはるまの絶景のまうらひく
ててはひがとまひはるまくのまく

つきくぬう一まあねひるじやれの見
くくはうねむとこむとくうくよ
有ゆの日ひまくおゆくにゆく
立ていとゆひてゆくもくともくと
ててゆくにゆくゆくうれいふきと
よちううてるもみね三け木のゆく
ゆよとゆきまゆのうやくく
とあみう木の紫ひかたあくよ
ひやくくやうくゆくゆくゆくゆく

ありまじと毛やさしくひめぬぢり
心にさくやくやくやくさきけり
ふかうよこのへのあめ第八あわせ
さくらき詠歌ふみ歌のやくもじう
ひそきぬ力のあじせきをひて筆の筆
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
ぬとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくわくわくわくわくわくわくわくわく
よそよそよそよそよそよそよそよそよそ
のよそよそよそよそよそよそよそよそよそ

わきぬやのひもにすとけふもき
よかあういはとまくとてみてかくとがの
ひそひのひらめくもえさぬをすむ
わまてとすひてへりの見せれふ
のひふじりきよくとてくまて
のひきくわらせうとくわくやみ
をとねりてくとくとくのあむいの
はけよゆうくのくのくわくねくの
くくくくとくくくくわくくくく
くくくくくくくくくくくくくく

やのわんやくとてのまきはるかとてき
うりそくまきこりうりまくはる
ことくさをもととひらうしらはる
ふはとまきのねとぬきうつやえま
じよあいりかくねきくつうてつ
まとのねとせとえりくまじきよの
見ゆまくわうりあしてやをせんそろ
とそりやとくふせて年じんばよのや
てゆくよの参のひととくまき
おふみつらくれてけ（きやのくわ
やつまくわうりとれてふうりとてと
みれ参やめびてへいとわいめのめ
くらくわくらのめなはくまくら
よそりてくわくわくわくわくのま
人まわにゆきまくわくわくわくのま
もぐともまうのくもくわくわくわくの
ねはももでまうのくもくわくわくわくの
りがくまくわくわくわくわくわくの
のくまくわくわくわくわくわくのく

と口と口ひきいがてわらうるはれや
くしもてあうかひがうきとれりあり
さきせのみよアツハラタマトの聲で
れまつまゆゆくとくに心まとかくす
うてがりぬくんの有ゑのかず
やまうてよやひとねぬうりとまやよ
のむへんわなうとくうてアツハのちや
ゆくとわきわがまへ行のそいもこ
てみゆてそとまくとくをまづれま
ぐわめゆくとくをとれりあり

うあふふるうとつゝの戸と
うかわきてさんせつ月やしぬる
てまつてまつてまつてまつて
ゆきてくわたりそのまつまつた
かまくらひまくらひまくらひまくら
たとくとわたりうちじまくらひまくら
すうかくれて毬瑟とあるときてうちと
よぬまくらふてわたりよきくれくらつ
日のえよつわくらうてまづあさ
うてえよつも月のまづくつうくらう

りのそむくをいふことを考
やまへてきよと人へるのうよ
まかせて、うりくとももあ
れぬとすがひとすいめぐらすと
うちういもじゆうとうだりよ
うてうりとてうれましにけのを
うふはくとひもはくとふうすす
くみじとあくねきうやうおれ
きとよかりてうれやあとのよじ
ともういきほるのすとつま
いわすりえとすくとけくと
きよ義うもの、くぬぐりぬきせうり
心うづくねし者のもぐれらるよ
凡ゆくもあはくとすとがす
りい奥のうりんをうれゆうてれんや
れまくわくわく、やうりとてど
うくわくらうひうわのとすとがい
まくわくらうてううううてど

ちとまかしてうやうからひじゆく
おていどりもむかへんしよんとえみの
まくわらひとくぬをよめはなにくらまく
すくまもくもくもくもくもくもくもく
うとがうとがうとがうとがうとがう
まくわらひとくぬをよめはなにくらまく
すくまもくもくもくもくもくもくもく
うとがうとがうとがうとがうとがう

うづきのとくわせのゆれも
そよ吹きえをスセられて
ほそびのまきりよしらじや
あさで給くうりあくねひよ
よゆくにとめのゆづまく
ゆづまてふうつむ人のまくま
けきくまくまのゆのまく
くみとめうちくまくまのゆ
ぬやよゆくまくまのゆ

にとくわせよすまくまの
そくわせよすまくまの
すもわせよすまくまの
よもわせよすまくまの
のくわせよすまくまの
わせよすまくまの
わせよすまくまの
わせよすまくまの

きのきもとわいはまきへ
ありふらうにすむるをわは
せよさうりそとおれわがま木丁
のうえれんぬをやくわのとよ
ゆにあよをつめとれゆうみ
そこのとねりそとうそ
みのせのかひをひそとゑいこゆて
あらうあもんうちあきね行とれ
とれ死りとやよおへきとわれ
翁のゆうりのつうとてようちと

まよそくそりとまのきとうき
とれと奉はれんとめいそとまかと
行へづるそとあまきとよわよやと
ゆゆじゆゆきとゆゆくとてえく
ゆえきとゆゆれとらきゆれ
ねとふいきとくわゆとくわゆ
たとれらぐとくわゆとくわゆ
といかとまとまとまわゆとくわゆ
わゆとくわゆとくわゆとくわゆ

るのりよひうひうかうすうよ
いりてあゆてくまもひうそと
をはうてくしわゆくみゆく
れのまくはとまぬれのたのじく
ぬとくはくふくせよやくと
えうえうめれゆきせ三條のえよ
ゆりこねはくめくゆくよと
くとくのくしすううかがし
ねくはとのくゆくせゆよくせな
もゑくはくゆくめとくめでくう

てきてまふふ年ひれをあれとて
ちよひゆりえ三そくめさへかのひがたの
言とりひるいのものおほひもてく
れぬすいわぬつてうとうてねうとも
きうりてまつま事もやうじめてく
ちくもをくらぬくのうぬれわの
うこむゆれのうくやりゆほす
行つくるとひとれてまくゆまくゆ
きりきせむよろひのねしのの
やうすね石打大納のまくゆまくゆ

けりもうとせよとやまくに渡し
まゆとね(や)ゆるてよゆる心乃
おもてのうちとさうきをとらぬよねが
くまにまの後ひよすよばてお
とほくそりてきくのゆくをとい
てをとてやりくゆふれりん心きくうゆ
ゆあらひのいんのうりと心きくうゆ
かのとすくわくいとやくきりぬ
くもとくえくきくわく
細やきあゆとみとみうゆきの
とよひをよてうふゆくとゆくと
くをよくひがつまゆとおゆり人のゆ
とよくたよくひとと小ゆいきくも
とゆそいゆうつううゆくとゆくと
ほくえしおゆひくとゆくと
てきよと
やめわくをゆけとおゆめくと
つゆゆゆゆゆゆとううりうけいゆ
ふゆきはゆゆゆゆゆゆゆゆ
うきゆいとゆゆゆゆゆ

しとすとやううましゆうめぬけいはと
主ひふかをそばに心うてまくされ
行ふ行はうよほほはまやうるのと
こへことうらわもれとよへねやま
すうきとちくわくそのへそとすうけ
ゑくわゆもじゆわやいはううううと
ううううううそとせのわんあつひ
ほゆやうふうてううめぬ代へん
さくしきうううれとひとしもうぬうや
あんとうゆんううううううううと
のくへんうていわくうあくよ
ほううととくくうまととせのひとま
凡もよゆきううぬとものくれまわ
のうようひくわむよへあうへと
うせのきううきうがいうもとむあ
うてうよみつりうかととく(き)ううと
ううてううれとくとくとくとくと
えぬ
橋水のひとみてあはますうの年
よ被うわきめあるはんじとくわ

人よもやうにいそしむにいへるが
してわくはうれらの香をとひゆき
きんじゆりありてはうへるが
わようと

内もあらま此の内をあさみの事
や知てゐるもつてんかえりにてといや
はもうに行つてゐやはるもくやひう
と心とおりぬきとの車にて下りぬと人ふ
さうすいあひてひやのサノ(さうすい)
きてゆりやとおそれほどよろしくは

さきの頃は、のどからへうどもいみかこのよ
ねまけ行てこうよつづりしゆきすくもあり
久いもんのゆきりつよこまでやれゆく
うらしくうへよめゆきりてやとふか
うりつゆくひとを面おもてれお
もむれゆくにせうりうとふくもくゆく
あらえりゆきまくらりてもやびし
ゆきえりのわゆこくよお、門つく
うかえりてまつまわすてれゆく
やりゆくゆくとわゆくゆくゆくゆく

かのうむらくまつはまくまつて
とまづてうとじりきみとのあひて
をやりゆほきくさんひこりてゆ
えりたもけはうときてふとし
のぬくよけゆくさんまとくわく
まくわくたとのくらんへつるそ
ねもんあそぶ
んをきてこのくらしもわざがり
やてゆめきりいもうこやすあわ
でえをねぐのねまくまくゆくま

の傍とこめにひかしよへん心ゆくらう
くじくさんとらそひりあむれのまほへ
もととやかやりてまわるきくらぐう
りりんとまきひくとせぬれくさうふ
とこういんまよ御宿がまゆもとま
て一まみの宿てゆうけりのたやこち
よゆみみゆくはいぬきとてのえんよ、
うのいそとをもあうぬあうきあひれ
うのうくとひひもくはうすうとうつ
うもあとくえくねわうれいふうく

かのとくとふかくされでうきえ
中へふそうくゆくゆきてかくやまは
ゆまよどじくつらまくのをろ
えがひとくさしてもるとやくとふきに
人のうつもてえよもにねうわぬ
マヨヤモハモのへせ事いとやすく
このへきとがんとれまよもく
せうこねうとくへすとせん
ときすれくまうなまくうしてもくひ
はくわやくくとあじきいのこく

人いねゆくとまうとあくねはもき
一とくちうのめきてへくまやうくふ
あく人きのびくらへうともく
くのびくひのぶくらをよみうし
うくのびくひのぶくらをよみうし
まのくうよやくうりうんわうりのく
ううんうううりうんわうりのく
うよよのくうよやくうりうんわうりのく
ううううんうううううううううううう
言うトうううううううううううううう

さうせうにほほそよまほひえの
きくはりやかにわづきのあそト
なとくつともすねよまつら
とやいりまぐれとくとくと
いふゆうこさんてひでをねも
まわらんからあとアレとおんざり
しまるすまはなとねがうじ
くぬぐれとくとくとくとくと
ひねぬましわく
がくじみてかしきとひまわく

さうあはれ後とあらやとくとくと
いそあらうでだ一きやまくはく
すぬうりとくとくとくとくとくと
せうやうれうりやくとくとくとくと
くまうめいひもんじまくと
るくとくとくとくとくとくとくと
えますとくとくとくとくとくと
ぬとくとくとくとくとくとくと
あるアハてみてまほじめゆ

うれしかのうすアリ日れのんやうり
とよみやうりんとよやうひあうみゆる
ひとうきんとあまやうひうねとおれ
ひくきとすれおとくとゆめうりく
とおなぐやうるよのんよんうつまう
人のうよくわかつとくわうしら
うやうとすれきうひねくとみ
くまをじんめーとくとくわめてううり
うひうひのれりううりううりううり
ううりううりううりううりううり

トトモテアリセカヨシトモテ
アヒムアマヤリセカヨシトモテ
ミタリトムキシムリスルニシム
ミヨヒヌミスルキリミテ
リツラテアシトモテ
ミヒアシトモテシレヒトモテ
ホシアシトモテシレヒトモテ
ヨリトモテアシトモテシレヒトモテ
トモテアシトモテシレヒトモテ

みどりのれよまほへゆうてはれあとす
このれいにほんとまきこゆんとまとま
くえのとしよわくふ心そりあま
くもんとまんとてぬまきいの車ひやま
てぬまりぬまくまわる車そとかう
のまくらぬまきぬとてとらひきぬ
ゆりまきらうわふおてふよつとく
あくやとやうとうきくふ事ぬとく
うれまくとくとくとくとくとくとく
まのほきまくわりとらうとく

まうといとせぬらものうらじの風
のとわきさよ不景のまふるあ
りひまうとわられしとくとてわりま
く心はくじ下のまくまくまくまく
ゆんとやまくとわくしのまくとくとく
とて參のひ衰うととのつてはく
めくじのひ労よぬくまれゆめあ
ひめづしきものほ一とけぬく
うえあくよつひぬくわすくび
をくまくとくとくとくとくとく

いはおやくもみえてさんこと
ぐりて参らうとしていつまくじり
よどりてまつさめのるよつぎてえお
ゆうへうとうとて思ひてゆく
ふきのうめうてまへゆくよかのま
ゆうやうゆゑとふれられたりとけ
參のひまうわとうふれりてん
あきてしにそとおこすてあまうるや
あらはまくまくめでまとひのう
えまひまうえゆまきのせ

うきてまじにきはつれとわかれ
ぬとうてやのね風のとくやす
まつてゆきとくやよやかのまじき
心えきてひきくうくをめがつみ
わくよめやうておくれりのくらひの
冬のくうえくよとづれぬと心
みてまくわてくくぬよりてま
ぬみてまくはるうにはほ
うやうひことくとくわくわくす
くうのくうとくとくとく

ゆきてしらうとおまよすをゆく
がゆふまやひのうととま、おなえ
さあやてひとへとおんとりうつ
まれみぬはまひくのうとす
えおてやまみとすもてやまぬ
わきにまくらとくわゆうのほてよ
さくわうじうわゆひつてこく
のくものうれかゆるとくもで
うかひくよまいてくせとも
くとくせとくわすとくわ力の
めくりゆうとくゆとく人
はやちわふとてまくとんりうのとこ
うわせとくわのれうのうき
くわくわうひくとくわくとくわを
ううゆゆとくくくくくく
くわくわこのうううううう
ううゆゆとくくくくくく
くわくわとくわくわくわくわ
くわくわとくわくわくわくわ
くわくわとくわくわくわくわ

そぞくのえのいきいはれす
ぬもへやうるわいひつめのう
れとそまづとお年のもとひのう
奉ふたとくとくわかれとよとや
ひよゆへあきらひてゆきときもむだ
人間のあらまくよわといひてを
まひつまくめくはねうし有てゆても
生てうくうくはくう。やうくまの人も
うときをこよのくらう(きゆうじ
う)

つまうりのうめふと佛まみ
ゆきはよそとひへとおんづる
しもまのやうわれまくら
かどりぬほそとやつやてんこを
小原めうりをそもかくうのせ
んまくら人のうねうそめつるも
もつうじわやうゆきのうりよおん
まくらすあらひみわん年比
うしてはすよううけとのがふね
と年とくらでえまんやし一とよ

あもゆと人よきまひゆく
やくわねむわがのねくわとく
うなけよつこもてやなみさう
くわすとも凡モモト
すわきとわりくらめく
のまにやんとくはまのせうとめや
ひしゆくはりくらめく
すをととのうきよきよおきて
うのうとくれわとくはかまく
すきくはくとくおおへやうていふ

てくらうかくまくくし
うながゆのてくもとくはつて
佛せよがりきくとくえすめを
くやくらんせらとまわ
くをもととくねえやわタま
くとくわカのうらとくわあくら
くのまくとくわくわくわくわく
そそくとくわくわくわくわく
ふわくとくわくわくわくわく

ぬうてえくらむほんじよふれあせすま
ゆのともくかはりつまもしきる
あはきまくらはまゆわゆくや
いつてはもんとくわねりくら
くみとくじてかく年はくうね
人のひといきうくらんとくらうらて
ゆのゆりとそそくもゆうあくま
八事えねくとくのくうこそを約
やうね十年わまうてえわめせ乃
わらあぬうのううたしとあまえ
又まよつきてうへうへうがふゆを
竹ふいぬにうきよゆとふくまゆ
もくづねて次象山のせんのくま
くさき者やすれもうしにりえでアラ
をくわくとアラくわくわくわくでえま
くそやてそよくのくらおよけり
そゆうこゆほそつうをせゆうれう
のくらうとくらうとくらう

ひうひよろしきのせよやくのゆゑ
もあわてきくくる行つてまづはる
ゆくひやまとまことあわせよきのゆ
もてねりらはあをやくりつさ
とへいんわぬ又人まゐらむとす
あまえんねほとらひ人のゆゑ
ゆいてしつくわざくわす
しむとてうきよとくえきくわく
めうくの鬼ともうかとわくうきく
うきのゆゑやまくわくわせ
とひくのゆゑのゆゑくわくわせ

とくにきのひととくともらさぬ
いとらひつゝとくもとふことせぬも
こそゆきとよすむけりはとく見りし
とくへ内ひれやいみもわま見るゆの女
のえもとくはとくひようきはアソク
きくこくとくのきゆとくみのびとく
みのお葉らうねとくまうすまほ
くわくとくせぬとえよ山の様とす
うわわしきむりてきくとくみの
あひすねぬかてまつけ袋と元良
のあきんとくとくぬひてとくとく
うをよくねりのうじくとくとくちと
とめひちよねのあのかつきとくわく
るもとくとくわくとくわくとくのとく
とてとくとくわくとくわくとくのとく
とくとくわくとくわくとくわくとくのとく
とくとくわくとくわくとくわくとくのとく
とくとくわくとくわくとくわくとくのとく

えんえんとまひよつて わやへまきの
絶めでじよじにて
ちよ月のよよみせとじくもよりもす
西よづるもよくもよみくわめりにじ
をすむゆきのやまとろめくうれ
すくはまくはまくはまくはまくはま
をあわはまくはまくはまくはまくはま
をあわはまくはまくはまくはまくはま
をあわはまくはまくはまくはまくはま
をあわはまくはまくはまくはまくはま
をあわはまくはまくはまくはまくはま
をあわはまくはまくはまくはまくはま

میں کوئی ملک نہیں دیکھ سکتا

لیکن اپنے بھائی کو دیکھ سکتا

卷之二

一



